

分類	主な意見の概要	事業者の見解
陸域生態系 (つづき)	<ul style="list-style-type: none"> ・ コウモリ類の森林保全に関する記述の部分を「コウモリ類の石垣島全体の個体数の増減には、島全体の土地利用の自然環境の状況の変化とも密接な関連を持つと考えられ、石垣島における森林の維持、増加は重要であると考えられるが、一方で、森林保全と同時に、ねぐら自体の維持も重要であることは、これまでのコウモリ類における保護対策に関する文献でも明らかである。従って、新空港建設に伴うねぐらの消失は、石垣島のコウモリ類の個体数の増減に影響を及ぼすことは明らかである。」に訂正すべき。 ・ コウモリ類のねぐらの消失について他の洞窟へどのように移動が行われるか予測が必要である。 ・ 島内全体のコウモリ類個体群への影響予測がない。準備書で石垣島全体の個体群からその保全重要性を評価している。工事中や供用時において島全体で何%減少するか、絶滅確率はどれだけか、予測すべき。 ・ 予測の記述が不十分。コウモリ類は、「樹木の減少により採餌場所の減少や移動経路が分断される…」とされているが、図と共に、減少する割合なども記すべきである。 ・ 洞窟が利用できなくなった場合、石垣島のコウモリ類の各個体群が何%減少する可能性があるかを予測する必要がある。 ・ 小型コウモリ類生息範囲と空港建設・利用地域が面的に完全に重なり合っていることから、現在の生育環境を将来にわたって消滅・減少させることは明らかである。このことは、石垣島の個体群の存続にとってまぎれもない打撃である。滑走路北部により、カグラコウモリとコキクガシラコウモリの餌場エリアも単純にみて質・量共に三割以上無くなるが、これらに対する問題意識は低く、有効な対処策もしめされていない。 ・ 洞窟の内部環境及び構造と利用状況とそれらの洞窟との比較検討を行わず、資料も示さずに「調査地全体では生息場所が確保されるものと予想される」などというのはきわめて非科学的なもの。 ・ この島のコウモリ類が他の洞窟へ移動できることはどのような科学的根拠によるか。 ・ コウモリ仲間は、外に洞窟がないのでここで群れをつくって生息している。 ・ 現地調査で77もの洞窟が確認されているのに、コウモリ類が利用する洞窟がその半数以下であり、出産保育や冬眠に利用する洞窟は更に少ないのはなぜかの意味が全く理解されずに記載されている。 	<p>p6-12-153～160に示しますとおり、事業実施区域周辺の洞窟から他の洞窟へのコウモリ類の移動事例を現地調査で確認しており、予定地の洞窟を利用しているコウモリ類は他の洞窟へ移動できると予測されることから、保全目標の「A及びD洞窟を含めた事業実施区域周辺の個体群が存続する」ものと考えています。</p>